



### あなたのペットを 写真で見つけて 被災保護動物リスト集

震災直後に避難を強いられ、後ろ髪をひかれる思いで愛するペットを置いてきた人も多い。保健所や動物保護団体、ボランティアは、そのようなペットたちを保護し、飼い主の代わりに世話をしている。

南相馬市の「被災保護動物リスト集をつくる会」の渡辺さんは、助け出されたペットたちを飼い主のもとに帰すため、写真付きのリスト集を発刊した。リスト集は現在二冊発刊されており、第一便には七六〇頭、第二便には五〇〇頭の犬と猫が掲載されている。希望者には無料配送している。

問い合わせ・申し込み先は、メールとハガキで受け付けている。メールの場合は、wakanyan-1212@eco.ocn.ne.jp、ハガキの場合は、〒979-2453 福島県南相馬市鹿島区小池字原畑1386 「被災保護動物リスト集をつくる会」渡辺和香子さままで。(海合)



### つながろう、福島と山形 共に福島の未来を信じて

本紙を発行している構成団体と、福島県会津市で支援活動を展開している「元気玉プロジェクト(会津つなプロ)」の合同ミーティングが、九月一日に会津市で開催された。

会津市では、福島県沿岸地域からの避難者を受け入れ、大小の避難所が運営されているが、徐々に仮設住宅などが設備されて新しい生活が始まっている。

「全国各地に避難する人々を、これからどうつなぎ、どう支えていくか。」ミーティングでは、相互の情報交換と、これからの活動についての話し合いが続いた。子どもたちが安心して住めるようになる日が来るまで、共に福島の未来を信じて、活動をしていく予定だ。(海合)



### 福島県只見町豪雨災害 ボランティアバス



八月七日、豪雨で河川氾濫により浸水被害が発生した只見町へ、山形県内からボランティアバスで復旧に駆け付けた。

現地に到着後、河川敷と思えば車が駐車した所は、川の砂が流れ込んだ水田だったようで、タイヤが埋まってしまった。地元の方に重機により牽引してもらい、なんとか救出。ヒヤリとした時間だった。

訪れた地域一帯は床上浸水被害。屋内外の土砂を取り除くのは、なかなか進まない予想された。しかし、参加者は気温上昇による熱中症対策も配慮しながら、泥出し・片付け作業を行った。ボランティアは福島県外からも多数参加していたが、困難を口々にしていた。重労働なのである。住宅一軒を清掃するには一日二十人の活動で二〜三日を要している。それでも住民は懸命に前向きな姿勢であった。

猛暑の中の活動で、私たちのグループでは、二名が熱中症になってしまった。帰途のバスでは、みなぐったりと休息していたのが印象的だった。

参加してくれたみなさん、お疲れ様。

(堀江、遠藤)

### あなたにメッセージです

ふくしまFMで月曜～金曜「ライフインフォメーション」を担当している百瀬薫です。山形市出身で、3月7日から福島県郡山市で生活しています。山形の皆さん、福島の方が落ち着いて過ごせるよう、迎えて頂きありがとうございます m(\_ \_)m

福島の皆さん、どうぞ山形でのんびりゆっくり過ごしてください。ふくしまFMの番組は、インターネット番組配信サービス「radiko」経由で、パソコンから全国どこでも聞けます。「ライフインフォメーション」では、福島県の情報をお伝えしています。聞いてみてください。

インターネットでラジオが聴けます! <http://fukkou.radiko.jp/>



## From 宮城

### 東松島市に 支援センターオープン

九月一日、東松島市の旧野蒜(のびる)小学校に、「東松島支援センター」がオープンした。

野蒜小学校は、津波の被害を受け、使用されていない状態が続いたが、地域再生の拠点として、地域の方と支援者の方々に協力運営されることとなった。

この小学校周辺では、まだ震災の爪痕が色濃く残る。しかし、一部の住民の方が仮設住宅から戻りつつあり、被災住宅の泥だし、片付けの手伝いを希望される方が少しずつ増えてきている。

山形県内からも東松島市の復興を応援するために、ボランティアさんが駆けつけている。(堀江、遠藤)

東松島支援センター  
TEL 090-2424-0880  
代表 中村健司



## From 山形

### 大きなダリヤ、 大きな笑顔



福島県在住の家族が週末だけでも避難したいと、川西町玉庭地区「おもいで館」を訪れ宿泊する動きが盛んになっていく。避難者が滞

在する際の同施設の世話人を担うため、当事者の中から手をあげた大貫夫妻をはじめ、福島から訪れる多くの家族。ここではゆったりと自然を感じながら、安心して地域の人々と親睦を深めている。

八月十九日は、「川西町ダリヤ園」を訪れ、大輪のダリヤに顔をほころばせた。花に負けない大きな笑顔を咲かせ、日ごろの不安や、福島での除染作業等の疲れを癒すひと時を過ごした。

同園では被災地支援として、本人と確認できるものの提示があれば、岩手、宮城、福島県民の入場料が半額となる。大振りの花が咲く八月が見頃だが、小振りでも大量の花を咲かせる十月上旬も一見の価値ありとの声が強い。川西町ダリヤ園は十一月三日まで開園している。(影月)

### かけがえのない 小さな命を育て

#### 「協同の杜」JA研修所

山形市の西部、豊かな緑に囲まれた中に「協同の杜」JA研修所がある。この研修所は、「妊産婦や乳幼児のいる家族」を対象にした避難所となっている。

施設には、広い和室に「わんぱく広場」が設けられ、地元の主婦グループ「もてなし隊」が子どもたちの遊び相手になっている。共に過ごす中で打ち解け、いろんな話をするようになったという。

七カ月の赤ちゃんともうすぐ三歳の子を育てている高橋さん(南相馬市)は、「母親同士で話ができるから、孤立することがなくて安心。でも、今は夫が福島に勤めに行き始めたのでお風呂が大変で」と苦笑した。

「もてなし隊」代表の原田陽子さんは、「生活の変化に応じた支援をこれからもしていきたい」と語る。(海谷)



### 東京電力、山形市に。

八月二十五日、山形市内にて、南相馬市民を対象にした東京電力による説明会が開催された。会場では、東京電力社員五名が、集まった百人、百五十人の来場者に対して原発事故の謝罪とこれまでの経緯を説明し、質疑に応じた。



自主避難を判断して山形へ来た人からの「自主避難者の二重生活などへの補償は？」という質問では、「継続審議中」という内容の返答にとどまり、避難者達の不安が解消されるには至らなかったようだ。

「私たちは、子どもの未来を考えて、山形にいます。」

東京電力や国に向けられた声であるが、会場で傍聴していた山形県民からは「何かできる事はないかと、心揺さぶられる思いがした」との感想が寄せられた。

東京電力はこの後も県内各地での説明会の開催を予定しており、計十カ所で説明会をする計画だ。(影月)



# みんなの声

●来たばかりの人へ。いろいろ抱えちゃうから、こもるのはやめたほうがいいです。ストレスためないで外に出てほしい。(南相馬市女性) ●「産まれた弟に何をしておあげたい?」えーとね...そだてたい(浪江町小学一年生) ●(避難者の)パパ友の繋がりもほしいし。なかなか山形へ毎週行く余裕はないが、なるべく子どものためにも努力したい。山形市のプール(ジャバ)が気に入っている。また行つて遊びたい。(二本松市から妻子のいる山形を往復しているパパ) ●山形へ荷物を運び入れてクタクタの日、ガスが未開栓でお湯が出ず、お風呂屋さんを探したら「スーパードール」があり、助かった。楽しいお風呂がいろいろあり、子どももお風呂遊びセットも無料で貸してもらえ、家族で楽しめてとても良かった。(福島市女性) ●ポケットサイズの山形市の地図や、生活情報があった資料がほしい(福島市女性) ●子どもは親の不安をよそに本当にたくましく適応するもので、大人にはその柔軟さがうらやましいかぎり。不安と緊張感がガチガチの親をよそに、楽しそうに幼稚園に通う子どもの笑顔に毎日救われる。(福島市女性) ●先日パパが福島に帰った日の夜、上の娘が「パパがいない」と泣きました。いつも我慢していたんだと思います。(福島市女性)

## 気軽に情報交換を

暑い暑いと言っているうちに、山形では恒例の『日本一の芋煮会』が馬見ヶ崎河川敷で開催されました。そして、復興への情報交換で訪ねた会津への道中も、色づき始めた稲田が美しく広がっていました。しかし、例年なら収穫の秋を謳歌する季節なのに、今年は震災の影響を受け、気持ちは一向に晴れません。

先日のニュースで節電意識が高い県として山形県が佐賀県と並んで全国一位という調査結果が発表されました。解説に「節電で被災地を支えるという意識が山形は高かった」という分析が紹介されていましたが、思い当たる節もあります。それは、被災された県と隣接している地理上の現実と、自分たちが直接的な被災を免れたという、ある種の「後ろめたさ」が、ここ半年、ずっと心の片隅に存在しているからかも知れません。だからこそ、今でも「何かお手伝いはないの?」「何とかお役に立ちたい!」と、私たちの復興ボランティア支援センターを訪ねてくる方が多いのでしょうか。

山形へおいでになったみなさん、お隣の県になったのも何かの縁! お互い気軽に情報交換してみませんか? まずはお互い自慢のレシピ交換なんて如何でしょう。(齋藤和人)

## ひと休み



### 東北に菊を食べる文化あり! もって菊をサラダで食べよう

山形の秋を彩る「もって菊」。9月9日重陽の節句は別名「菊の節句」と言われ、菊の料理で長寿を願う行事です。今回のレシピは「もって菊」を使い、季節の野菜を加えた彩り豊かな一品。菊はいつでも良く、成分のアントシアニンが夏の疲れを癒してくれます。

#### もって菊のサラダのレシピ

[材料] (6人分)

- もって菊(紫)と菊(黄)各1/4パック
- 紫玉ねぎ1/4個 水菜1/2束
- シーチキン1缶 しょうがの搾り汁少々
- 酢(茹でる時) 少々

#### ★ドレッシングの材料

- サラダ油 大さじ6 酢 大さじ2
- 塩 小さじ1/4 コショウ少々
- ニンニクすりおろし 1片
- しょうゆ 大さじ1 さとう 少々

#### [作り方]

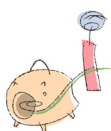
1. 沸騰した湯に酢を少々入れて菊をさっと茹でる
2. 玉ねぎは薄切り、水菜は3cmに切る  
シーチキンは油を切ってしょうが汁をかけておく
3. ドレッシングを作る
4. シーチキン、玉ねぎ、水菜、菊と、ドレッシングを合わせる



レシピ提供者: 映画「よみがえりのレシピ」製作委員会 鈴木淳子さん

支援センターのサイトをご覧ください → <http://kizuna.yamagata1.jp/>

## 編集部より



情報提供、活動協力など  
お待ちしております

### 避難者向けフリーペーパー「うるかむ」

発行元: つなごろう! ささえあおう!  
復興支援プロジェクトやまがた  
〒990-2412 山形県山形市松山三丁目14番69号  
「復興ボランティア支援センターやまがた」  
TEL 023-674-7311 FAX 023-674-7312  
E-mail kizuna@yamagata1.jp  
WEB <http://kizuna.yamagata1.jp/>

●無償借上げ住宅の確保まで完了していたのに親戚一同の猛反対で避難が保留になった福島の人に、心配だが連絡すらしらない日々だったけど、思い切つて連絡したら昨日から山形に住んでるって。嬉P!! (Hirropy)

●「子連れで行けるお店を知りたい」という質問に、すぐ答えられなくなった自分。○○年前ならスラスラッと答えられたのになあ。いい店あったら教えてね。(海谷)

●柿実り、徐々に秋の色染まり、先が気になる、泣きたくなり、安芸は広島、和田アキ子は浪花、秋田名物にも避難生活にも飽き々々しますが福島はあきらめない。(伊藤 範)

●うえるかむ発行後、プロの記者さんに取材されるようになった。取材される側の気持ち、気配りの必要性を感じるようになった。しかし、取材はされるが、滅多に私の名前は掲載されない。(安堵!) (遠藤)

●戦場カメラマンの「現場についていた時、既に事件が既に終わっていた」という笑い話(3)が、身につまされる話となったこの頃。しかし行く先々で接する人達の大きさと元気に支えられ、感謝な日々。(影月)

